



二百廿日豊年市民祭

秋の訪れを告げる 廿日市地域の風物詩

9月13日、二百廿日豊年市民祭が廿日市天満宮、はつかいち本通り、駅通りで開催されました。この祭りは江戸中期から現在まで300年に渡り行われ、豊作物への感謝の祭りとして続いてきました。

この日、通りにはたくさんの露店が並び、多くの人が訪れました。また、廿日市駅通り商店会（けん玉商店街）では、けん玉体験やけん玉ショーなどのイベントが行われ、多くのけん玉ファンが駆けつけました。



写真1 大きな掛け声と共に担がれる俵みこし。写真2 たくさんの露店が並ぶ本通りと駅通り。写真3 鬼や天狗の面を付けた「はな」。子どもたちには布がられますが、縁起が良いものとされています。写真4 中国醸造で作られたお酒の鏡開き。来場した人に振る舞われました。写真5 けん玉師である伊藤佑介さんによるパフォーマンス。繰り出される技に観客は拍手を送りました。



大野学園入校式

木の香あふれる 新たな学び舎が完成

9月1日、来春開校する大野小中一貫教育推進校（大野学園）の入校式が行われました。

新校舎の敷地面積は約4万5000㎡、鉄筋コンクリート造りの3階建て。また、校舎の至るところに廿日市産の木材が利用され、木の香りが漂います。

この日、入校式に参加したのは児童・生徒977人。2、3階には同じフロアに小学生と中学生の生徒・児童が入ることになります。



大野学園の全景。平成27年度には校庭の整備、中学校柔剣道場の新築工事が進められる予定となっています。

社会に貢献した高齢者を祝う

いつまでもお元気で、100歳への感謝を届けます

9月14日、今年で100歳を迎える八木正枝さん（新宮）宅を眞野市長が訪問し、長寿を祝福。祝状と銀杯が手渡されました。八木さんは長寿の秘訣として「好き嫌がなく、よく食べることです」。また、100歳を迎えることができたのは、「家族の支えがあったからこそ」と笑顔で話してくれました。今年度市内で100歳を迎えるのは42人（男性6人・女性36人）です。



今年で100歳を迎える八木さん（写真右）。大正3年生まれ。現在市内には100歳以上の人が76人。最高齢は107歳です。



写真1 まくら投げ選手権で浴衣を着てまくらを投げた参加者。女子の部では室伏さんの投げを上回る記録、15・1mをたたき出した宮田めぐみさん（東広島市）が優勝しました。写真2 しゃくしを使った宮島ピンポン。洗面器に入れてしまつてしまった宮島市のコーナーが設けられ、多くの人でにぎわいました。写真3・4 まつり最後のステージでは神楽やロック演奏など盛り上げました。写真5 打ち上げられた1001発の市販花火。写真6・7 ステージでは神楽やロック演奏など盛り上げました。



第13回宮浜温泉まつり

夏の終わり、宙を飛ぶまくら

今年で開湯50周年を迎えた宮浜温泉で、8月30日に宮浜温泉まつりが開催されました。

会場では毎年恒例の温泉旅館まくら投げ世界選手権が行われ、会場には腕自慢の人々が集まり、まくらの飛距離を競い合いました。

今年は、円盤投げ・ハンマー投げの日本記録保持者室伏由佳さんが特別ゲストとしてまくら投げに参加。室伏さんがまくらを投げるたびに、会場からは大きな歓声が沸きました。

会場には飲食物の販売コーナーやグランドゴルフ、宮島ピンポンのコーナーなども設けられました。またステージでは、鳥神太鼓やロックの演奏、栗栖神楽団による神楽などが披露され、まつりを盛り上げました。夕暮れ時になると多くの人が会場を訪れ、夏の終わりのまつりを楽しんでいました。



中学生と市長のふれあいトーク

まちの未来へ、市内の11校の生徒が提案

8月30日、中学生と市長のふれあいトークを廿日市市役所で開催しました。参加した学校は11校。各学校を代表し、11人が参加しました。このふれあいトークは、中学生が考えるまちづくりの提案に対して、市長が市の考え方や事業を説明し、これらの提案をまちづくりに反映するために対話するものです。

今回は、「もし自分が市長だったら」というテーマで提案をしてもらいました。各中学校の生徒は市長に廿日市のまちづくりのアイデアを発表。市内のバリアフリー化への意見や特産物を市外へとアピールする施策などの提案をし、積極的に自分の意見を述べました。

また、会の最後に行われたフリートークでは、市長から将来の夢や目標についての問いかけに中学生が答えました。



写真1 中学生と市長のふれあいトークは今年で17回目。今回は初めて市議会の議場や市長室など普段は入ることのない市役所内の施設を見学しました。写真2 廿日市中学校3年生の長谷川深悟くん。もし自分が市長だったら、より誰でも快適な生活が送れるようバリアフリー化を進めていきたいと思います。

宮島ビジターバス供用開始

宮島へ気軽に立ち寄れる 船の拠点完成

8月22日、宮島ビジターバスの供用が開始されました。このビジターバスはプレジャーボートなどがクルージングの際、気軽に立ち寄ることのできる係留場になります。この日、最初の来航者となった岩田行史さんは、「船乗りにとってとてもいいこと。これからは利用していきたいです」と話してくれました。ビジターバスの利用の受け付けは、国民宿舎社の宿 ☎40430まで。



宮島観光親善大使の奥美鈴さん（写真左）から花束を受け取った岩田行史さんら。この日は友人4人と宮島を訪れました。

大野7区お茶の間サロンオープン

気軽に寄れる、地域のサロン

大野7区集会所で「お茶の間サロン」が8月20日から始まりました。大野では1区と2区にも開設され、自由に誰でも出入りできる場所を提供しています。初めての開設となったこの日、訪れた人はさっそく隣に座った人とおしゃべりを楽しみました。安心サポートリーダーの森川範吾さんは、「気軽に近所の人が立ち寄り、なんでも話し合える空間を作っていきたいです」と話してくれました。



お菓子やコーヒーを楽しみながら、おしゃべりに花を咲かす来場者。7区集会所では毎月第3水曜日に開催を予定。

宮島水族館入館者200万人達成

オープンから3周年、200万人の大台達成

8月19日、宮島水族館の来館者が200万人を達成。記念のセレモニーが行われました。

この日200万人目の来館者は、大阪府から来た町穂乃香さん（8歳）と英恵さん（4歳）。2人には館長から記念品が手渡されました。穂乃香さんは記念品のスナメリのぬいぐるみを抱きしめ、「水族館に来るのを楽しみにしていました。うれしいです」と笑顔で話してくれました。



展示を見る町穂乃香さん（写真手前）と英恵さん（写真奥）。穂乃香さんは「ゴマファザラシを見るのが楽しみです」と話してくれました。